

寮官人已下兼又召諸陣吉上又令召左右衛士等各上御殿上搔集宿雪積置御庭上終日不休仰酒殿并造酒司令賜酒於役夫等是例也及晚景役夫等退下積置殆及覆襟耳

〔續今古和歌集賀二十〕雪のいとふりつもりて侍りけるを山のかたにつくらせ給ひけるにうへの

をのことも歌つかうまつり侍りければよませ給ひける

後朱雀院御歌

天地もうけたる年の迄るしにやふる白雪も山となるらむ

〔續拾遺和歌集冬六〕だいはん所の壺に雪の山つくられて侍ける朝よみ侍ける

周防内侍

あだにのみつもりし雪のいかにして雲井にかゝる山となりけん

〔新後拾遺和歌集雜秋八〕堀川院位におはしましける時南殿の北面に雪の山造らせ給ふよしを聞

周防内侍

きて内なる人に申し遣しける

返し

中宮上總

きても見よ關守するぬ道なれば大うち山に積るまらゆき

〔永昌記〕嘉承元年十二月三日庚申今日自夜雪降深及五六寸早旦參内主上川堀於紫宸殿覽深雪

朝餉壺并藤壺前庭被作雪山雲客井瀧口所衆各競作之予藤原爲隆候宮御方同令營之殿上人八九輩遊舟岡爲覽初雪也上皇

河○白於桂河胡賀邊歷覽之近日御鳥羽也

〔台記〕保延二年十二月四日丁酉雪積地八九寸許夜前雪の積也今日ハ不降予藤原賴長雪山ヲ作申

終程雪山ヲ作了此後予食物自且依作雪山申了程今日初食物也凡今日食物只一度也食申了後

又不食

久安二年十二月廿日大雨雪洛中殿上九寸辰刻向舟岳眺望○中歸家築雪山廿一日戌刻終雪山之功